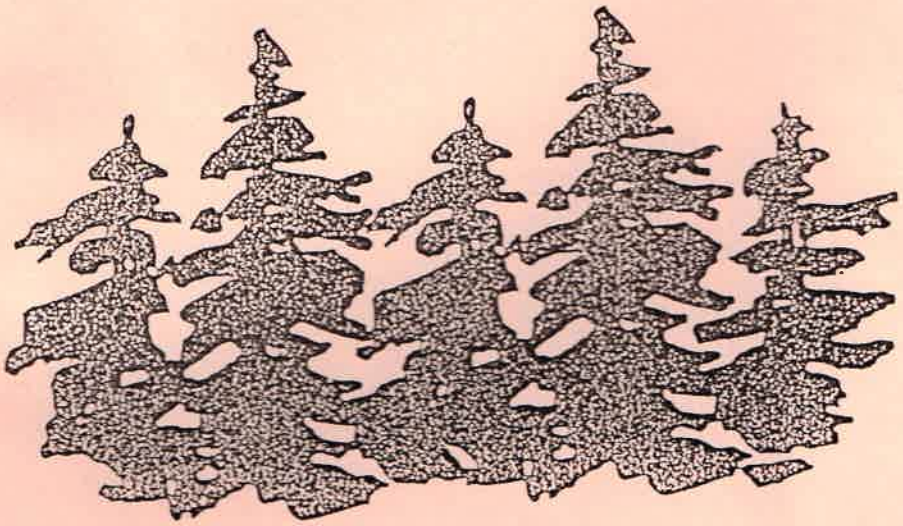
エゾマツ



No. 28　　1994．2．28

北海道ボランティアレンジャー協議会

「巻　頭　言　」

会　長　　大　友　　健

樹木の冬芽を学んで

２月の末に道主催の、私共ボランティア、レンジャーに対するセミナーが開催され、北海道の森林の特色、及び特色づけている因子として、気候的、地文的にそして生物的にある、基礎的条件の数々を道立林業試験場道東支場長である斎藤新一郎先生より、関連づけながらのお教えを頂いたのである。

今回のセミナーにメーンとして位置付けされたのは、季節的にも冬の樹木であり、越冬期を迎え成長活動の停止から厳しい寒さを、春が来たりなばと耐え忍ばせるものは何か、樹木の成育環境を、今形成されている冬芽の形態を通し野外実習で学んだのである。

樹木の生育機能を有する冬芽、それは樹木における一年間の、成長活動の成果とも言えるのではないだろうか。

活力ある冬芽こそ、春を迎える季節になると、好条件で開じょ、開葉、開花と営みを外観的に捕らえることが出来るのである。

この、好条件を与えるものは、当然ながら森林環境であり、その第一は気候因子の温度であり、即ち樹木毎に要求する温度の効果ではないだろうか。

一般的には、呼吸作用、同化作用が個々の樹種によって、季節的な移り変わりのなかで営まれ、多くの樹種は冬が近づくと、でん粉質が脂肪質に変わるのは、寒気に対する抵抗力を増すためと言われている。

樹木の生活は、多数の部分的機能からなるもので、それぞれが、特有の温度の範囲内で機能を全うする。生態的な最適温度は、全成長期間を通じて同一でないことも、発芽やつぼみの膨らみにたいする温度は、結実期のころの温度などより低いことからも理解が出来る。

「冬のツリーウオッチングは、何もない冬でなく、何でもある冬を楽しみましょう」と先生がテキストに書かれている言葉を大切にしたい。

日毎に春の足音が聞こえてくるのを感じる季節になりました。
冬の間は、スキー等で足腰を鍛えた会員の皆様もいたことと存じます。
現在の執行部のメンバーによる会報の発行は、今回が最終回となります。
また、春から新執行部のメンバーによる会報を楽しみにしてください。
会報が、会員相互の情報交換の場としての機能をもっと発揮できるように
新執行部のメンバーに期待したいと思います。
投稿してくださった会員の皆様、巻頭言をくださった会長に御礼申し上げます。
これからも会報の内容を充実したものにしていきたいと思いますので、特に札幌圏
以外の会員の皆様のご意見もお願いいたします。
本号の投稿者は次の方々です。

札幌市　香島 由美子 さん
〃　川端 功治 さん
〃　目黒 孝 さん

さて、4月30日（土）に本協議会の総会が開催されます。
詳細は、おって総務部から連絡があると思いますが
会員の皆様の積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

狐の世界からのぞく人間たち

札幌市　　香　島　由美子

昨年の秋、竹田津　実先生の講演を聞く機会がありました。竹田津先生は、ご存知の方が多いと思いますが、網走の小清水町で、家畜診療所の所長時代、映画「北キツネ物語」の監督をされました。また、オジロワシ調査も手がけられています。キツネの調査をはじめてから２８年目だそうです。講演はスライドを使って話されましたが、その要旨をまとめてみました。

動物の世界は、人間とは違い「雄」は存在するが、雄が「夫」の役割を行わない例が多い。しかし、キツネやタヌキの場合は、子どもをいかに喜ばすかという仕事があります。これは、子ギツネが父キツネの先をこして遊ぶようになると蒸発するので父親の仕事を分担しているのです。雌は夫婦関係を維持していく賢い動物なのです。

キツネは水に入らない、木に登らないと思われています。子どもは親の真似をするものです。キツネも例外ではなく、特にメスの子ギツネは親の真似や行動範囲が大きく、思わぬ事で、早く命を落とす傾向があります。

キツネはまた、広く明るい所が好きです。反対に、タヌキは林の中の薄暗い所や夜間を好みます。

繁殖期になると、雌は恋いわずらいをして、絶食状態になり雄を呼びます。４匹の雄が距離をおいて待ちます。そして、雄の力の強いものが雌を得るのではなく、運の良いものが、雌に認められます。

子どもは、１４日で目があき、耳が聞こえるようになります。２４日ぐらいは、まだ真っ黒です。

２０日ぐらいまでは、子ども同士でけんかをすることがなく、ゲーム遊びの様相です。その理由は、幼い時は力も弱いので、けんかをして怪我をしないためという知恵

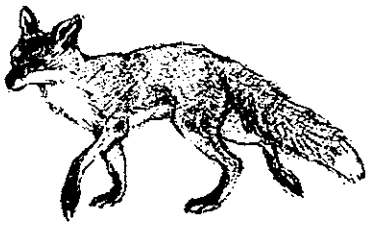
が働いているものと思われます。

雄と雌の比が、１：３で、１３匹の家族の場合、血縁関係の中で助け合うヘルパー制度が見られます。春から夏にかけての４月から８月までが、キツネの育児の期間になります。

生まれてから３０日たつと毛色はおやと同じになり、育児の期間の終わる８月ごろになると、子どもらしさが失われていきます。そうすると、子別れを迎えます。子ギツネは、親の住む位置から近ずいたり、離れたりしながら親離れをしていきます。離れる距離は１２㎞位になることもあります。生まれてから翌春まで生きのびることができる数は、１００匹中６匹ぐらいで、大変きびしい状況であることがわかります。

キツネは好き嫌いがはっきりしていて、大変自己主張が強い動物です。ですから、飼慣らしたり、家畜にはなりません。その点では、犬は同じ事をえいえいと続ける習性があるため家畜性があり、キツネとは対照的です。

（北海道精神保健協会　記念講演より）



キタキツネとホンドキツネ

キタキツネは、ユーラシヤ大陸及びアメリカ大陸に広く分布するアカキツネの亜種で、北海道、南千島、サハリンに分布します。また、別亜種のホンドキツネは、本州九州、四国に生息します。

キタキツネとホンドキツネの体型はよく似ていますが、キタキツネのほうがやや大きく毛色が明るく赤褐色をしています。性質も多少異なるようで、ホンドキツネのほうが用心深いように考えられています。

（参考　動物と私たち　―北海道自然保護読本―）

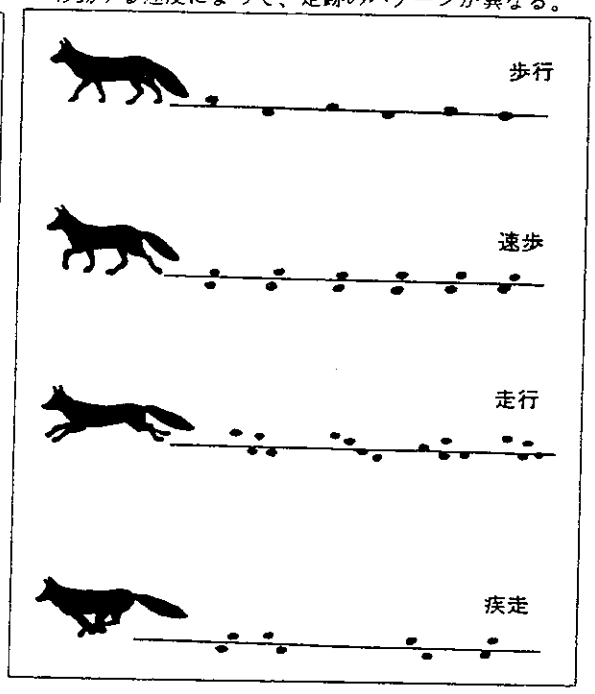
キタキツネ

足痕長：4～5㎝
足痕幅：3～4㎝
　(後足では2.5～3.5㎝)
歩　幅：30～50㎝

キツネはイヌに比べると胸幅が狭いため左右の足をほぼ一直線上に置く。さらに前足痕に後足を重ねるため、足跡は直線状に並んだ点になる。同じ地点に足を置くので、危険物や音の出る物を踏む確立が低い。

歩行

移動する速度によって、足跡のパターンが異なる。



アカネズミ

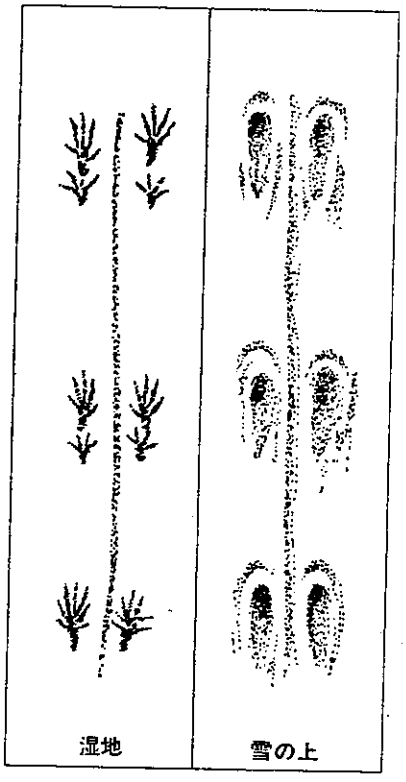
後足痕長：2.0～2.8㎝
後足痕幅：0.7㎝
歩　幅：1.5㎝
跳躍距離：3㎝

いわゆる野ネズミの代表であるが、体が軽く、彼らの通路がトンネル、草むら、落ち葉の上などのため、足痕を雪の上以外で観察できるのは稀である。

野ネズミの後足の大きさ（単位 ㎜）

エゾヤチネズミ	18.0～21.0
ミカドネズミ	16.2～17.5
ニイガタヤチネズミ	17.5～19.8
カゲネズミ	14.5～18.0
ハタネズミ	18.0～19.0
アカネズミ	21.0～27.5
ヒメネズミ	17.0～22.0
カヤネズミ	14.0～17.1

アカネズミの足痕



参考　ｱﾆﾏﾙﾄﾗｯｸ ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ（出版　自由国民社）

地球は今、病気に！　　目黒　孝

今日の地球が病気に罹っている、という話があるのをご存じでしょうか。
人類が生存できる唯一の星、地球は、現在のところ平穏無事のように見えます。
が、実際は、年々病状が悪化しておるとのこと。

これは、国連が過去二十年間にわたり、地球に関する科学的なメスにより精密診断した結果だそうです。

地球は、無責任な廃棄物の放出による「公害病」に罹り、急速に悪化していることが判明されている。そして、この「環境汚染」の犯人は、人類以外の何者でもありません。

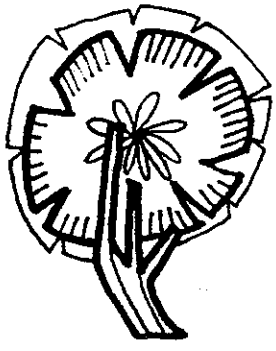
科学技術の発達による量産生産、文化生活、高級生活から発生する廃棄物の不適性処理、資源の酷使等が元凶と思われます。

最近、「地球にやさしく」という言葉を聞きますが、これでお茶をにごしている時ではないと考えます。現に世界各地にいる、責任不在の公害による犠牲者を忘れてはなりません。

兎角、人は自分に直接痛みを感じなければ「対岸の火災」視をするようです。
現代のゴミ戦争（家庭から排出されるゴミ、事業活動から発生・排出される産業廃棄物）を一例に考えてみても解決への道は険しく、たいへん憂慮されます。

しかし、このまま進めば、人類が地球で生存できる期間が短縮されることは否めず、何とかしたいものです。

人類共通の責任として、今、真剣に考えると共に、毎日の生活において、少しでもゴミを減らすよう、努力することが必要かと思います。地球を汚し続けた結果として人類が、自らの住居たる地球から追い出される事態にならないよう、ここに訴えたい。



-続- 閑　話

札幌市　川 端 功 治

好評につき、今回はベロニカという花のお話しをします。昔、キリストが十字架を背負わされ、はりつけ場に曳かれて行くとき、額から血が流れていました。

これを見た一人の女性が「可哀相」と馳せ寄り、るり色のハンカチでふきとりましたところ、これは不思議！ハンカチにキリストの像が写しとられる、という奇跡が起こりました。（のちにこの女性は聖女となり、人々にあがめられたということです。）

ちょうどその時、付近一帯に咲いていた花が、この聖女のハンカチと同じるり色であったことから、この花に聖女の名前をとって「ベロニカ」とし、学名の属名に採用しました。

やがて、時を経て、この花は日本にも渡来したのでありますが、日本古来からの在来種にイヌノフグリという植物がありました。そこで、これと近似するが、大型なのでオオイヌノフグリと命名されました。この「実」の形が雄犬のフグリに似ていることからつけられたものです。ちなみに漢字では、「大犬の陰嚢」と書きます。

そこで声あり、「先生！セクハラです！！」

ちょっと待って下さい。この話しにはまだ続きがあります。

確かにこの呼び名は女性のプライドを著しく傷つけるとして、婦人団体が抗議して学界に改名の陳情をしたことがありました。そこで、それでは女性側から希望する新しい名前を申し出なさいということになり、協議した名前が「明けの明星」でした。

しかし、これを受け取った学界では、歴史的・民俗的・学術的に何ら根拠がなく、ただ美しいだけではだめだ、ということで立ち消えになった、といういきさつがありました。

「ふぐり」というソフトな音の響きは、ピッタリと思いますが、皆様いかがなものでしょうか。

またまた、声あり。「先生！それがセクハラということです。」

オオイヌフグリ ［ゴマノハグサ科 クワガタソウ属］

どこにでも見られるため、あまり大切にされませんがなかなかよい花です。しかし名前はよくありません。「大犬のフグリ」。“果実の形を陰嚢”に見たてた名前で悪名の代表格です。茎は基部で枝分けし、這うように広がります。茎の長さ15～30センチ、花は径8～10ミリ。ヨーロッパ原産で、明治20年(1887)頃東京で気づかれ、大正時代には日本中に広がったとのことです。

生育地　畑や道ばた　　分布　（帰化植物）　　花期　1－6月

僕の出会った自然人たち

我が師　高野伸二

高田　勝

富士ゼロックス（株）GRAPHICATION　1993・2　254号

前回に引き続き、故高野伸二氏についてのエッセーを掲載します。
ボランティア・レンジャーは、それで生活をしているわけでない、とはいえ、自然を愛し、自然に親しむという点でプロとは違った意味で、達人でありたいと思います。
自然観察の先駆者ともいうべき氏についての話が、何かのヒントになれば幸いです。

アサギマダラの食草

高校生になった時、僕は迷わず生物部というクラブに入った。そこが、白衣を着てヘビやカエルの解剖にうつつを抜かすような“エセ研究クラブ”ではなく、生物に名を借りてあちこちの山や海に遊びに行くのが目的のクラブと教えられたからである。

しかしそうはいっても、我が高等学校は全国から学生が集まってくる「名門校」であったから、生物部にも優秀な、というより少々世間離れしたのが集まっていた。そして、植物とか昆虫とか鳥などといった一般的なものばかりでなく、クモの専門家やプランクトンの専門家、淡水魚の専門家なども居た。ゲジゲジやヤスデやムカデといった、足のやたらに多いものだけに夢中になっている奴も居た。

もちろん専門家といっても高校生レベルでの話であるが、これまでいっぱしのナチュラリスト面をしていた僕は、ショックを受けた。鳥だけに関しては、何とかクラブ一の物知り顔ができたのだが、他のものに関してはまるで歯が立たなかった。

そこで、クラブ活動で外に出かけるたびに、僕は各専門家たちの後を執拗についてまわり、あれは何だこれは何だと、その名を尋ねた。

哀れにも、ここでも名前を知ることのみに汲々としていたのであるが、それで充分に満足していたのである。

そんな十月のある日、久しぶりに新浜の探鳥会に顔を出した。リーダーはもちろん高野伸二氏である。

そしてこの時、僕は初めて氏と個人的に話をする機会を得た。出会いはずっと前だったが、僕にとってはこの時が実質的な“運命の出会い”と言っていい。

憧れの人とサシで話をする緊張の中で、僕は鳥とは関係のない話を持ち出してしまった。その頃家で、クラブの友人からもらったアサギマダラという蝶の卵を保管していたのだが、予想より早く卵がフ化してしまい、手持ちの食草がたりなくなっていた。その心配を、ふと口にしたのである。がすぐに、鳥の専門家に蝶の話などしたことを悔いた。

ところが、氏はたちどころにこう答えたのだ――「ああ、アサギマダラの食草ならキジョランだね。僕は生えている所知ってるよ」。

迷うことなく食草の名 ……それも、あまりポピュラーではない草の名が氏の口から出てきたのである。しかも、アサギマダラとの関係までお見通しなのだ。ただただ茫然としていると、「だけど飼育して最後はどうするの」と尋かれた。

僕には標本収集という趣味はなく、あくまでイモ虫から蛹、蝶となる過程が見たかっただけなので、その旨を話し、最後は食草の豊富な所で離してやるつもりだと言うと、氏は大きく顔をほころばせ、「そういうことなら場所を教えよう」と言い、ちょっと考えてから、「そうだ一緒に行かない？分かりにくい所だから、連れて行ってあげるよ」と言った我が耳を疑りたくなるような言葉だった。マリリン・モンローやエリザベス・テーラー（ちょっと古いナ）にデートを申し込まれたって、その時ほどの悦びは感じなかったに違いない。

そして当日、氏と一緒にキジョランの山を歩いて、僕は完全に氏の信者となった。ファンなんてものじゃない。師と決めたのである。以後は金魚の糞となって後をついて歩いた。

何しろ、日がな一日歩いていても、師と一緒だと飽きることがない。およそ生きものであれば、それがクサ偏であれケダモノ偏であれ、何でもござれである。

実地研究や文献参照からくる深い理解に加えて、豊富な周辺知識の裏打ちがあるから、話の面白さといったらない。

一匹のカメ虫（昆虫は本当は一頭二頭と数えるが）の話が、最後には植物から油を得る方法なんて話になっていくこともあれば、トックリバチの泥巣の話をしているうちにコシアカツバメの泥巣の話になり、ツバメの巣のスープについて、となったりする。

古今東西の自然研究者の話をしているうちに、なぜか酒井和歌子が可愛いという話になったりもするし、養蚕の話がいつの間にかクモの糸の話になったりもする。

そして、きわてめて稀に、答えられない質問を受けると、いともあっさり「僕はそれは知らないな」とカブトを脱ぎ、「調べてみるよ」と言うのである。そして実際、次に会うと必ず答を用意しているのであった。

師は、ただ仲間うちだけで活躍していたのではない。まだ自然保護とか環境保護といった概念のほとんどなかった頃から、ラジオ、新聞、テレビを通じて、盛んにその重要性を訴え続けた。軽妙でありながら誠実な語り口や文体に魅せられて『高野スクール』入りした人も多い。

関係機関との懇話会

―― 本会をより発展させるために ――

平成６年２月２７日（日）北海道保健環境部自然保護課の主催による日帰りセミナーが開催されました。この日は多くの会員が集まることもあって、セミナー終了後に会員と関係機関との懇話会がもたれました。この会の趣旨は、本会をより発展させるために、関係機関と連携を取り合い、よりよい活動を模索することにありました。

懇話会はまず、ボランティア・レンジャー協議会の目的とその現状の報告から始まり、以下フリートーキングの形式で話し合いが進められました。

話し合いの柱は次の３点にまとめられます。

①ボランティア・レンジャー協議会の改善点（問題点）

②会員がより実践活動をするために

③関係機関との連携を深めるために

参会者の中からさまざまな意見や要望の発言がだされ、予定の時間を有効に使って建設的な話し合いがなされました。

話し合われた内容をまとめると、関係機関との連携・協力をハードとソフトの側面からとらえました。ハードの面では、場所や施設をどのように利用活用させてもらえるかという援助協力の課題があります。また、ソフトの面では、会員が持っている力量をいかに高めるかの研修体制や資料の提供をどう受けるか、さらには、観察会の実践記録のまとめ方やその助言の受け方が考えられます。ただ、いずれの側面においても、北海道ボランティア・レンジャーの主体性を持つことが前提であり、関係機関への「おんぶにだっこ」という甘えの構造は許されないことは言うまでもありません。

本会の目的（会則第２条）には、自然観察及び自然保護に関する意識の高揚を図ること、自然保護思想の普及啓発に努めること、そして、これらの事を関係機関との協力で進めることが述べられています。この目的実現のために、今回の懇話会は大変意義があり、成果があったと思います。　　（文責　広報部）

野公管第 203 号
平成 6 年 2 月21 日

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会長 大友 健 様

北海道野幌森林公園事務所
所長 森 俊道

平成６年度実施の「森の観察会」への協力依頼について

春寒の候ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

貴職におかれましては、日ごろから、自然保護行政の推進並びに野幌森林公園事務所の事業実施につきまして格別の御協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、当事務所では、別添のとおり、平成６年度の行事を計画しておりますので、お知らせいたしますとともに、このうちの「森の観察会」の実施に当たって、貴会に御協力いただきたく、お願い申し上げます。

（公園管理部公園利用課）

平成６年度普及行事実施計画

1　計画目的

道民に、自然に親しむ機会を提供し、自然保護思想の普及啓発及び野幌森林公園の利用促進を図る。

2　実施計画

(1)森の観察会（日曜実施）

実施回数　　３回

定　　員　　なし、当日受付

実施目標　　季節の特色がよく感じられる時期に、森を散策し、野生の息吹にふれることの楽しさを感じてもらうことを目標とする。

実施要目　・春、秋、冬の実施とする。

・日曜日に実施する。

・途中で昼食をとる。

・ただ歩いて目に付くものを片っ端から説明するだけでは参加者に対して一方通行になってしまいがちなので、コース途中の見所に対応した、設問や指示を設定するなど、参加者自らの興味を引き出すように、プログラムを工夫する。

・実施に当たっては、北海道ボランティア・レンジャー協議会に協力を依頼し、現地での参加者への案内・解説及び下見などについて、同協議会会員の協力を受ける。

・詳細については、別途決定する。

(2)森の観察会（平日実施）

実施回数　　４回

定　　員　　なし、当日受付

実施目標　　日曜日の行事に参加できない人にも観察会に参加する機会を提供するために、平日の午前中の比較的短い時間に気軽に参加してもらえるように設定する。

実施要目　・正午に解散とする。

・その時々の参加者の人数や年齢層に応じて柔軟に対応する。

・参加者に対して、単なる説明の一方通行にならないように、参加者自らの興味を引き出すように、解説のしかたを工夫する。

・実施に当たっては、北海道ボランティア・レンジャー協議会に協力を依頼し、現地での参加者への案内・解説及び下見などについて、同協議会会員の協力を受ける。

・詳細については、別途決定する。

(3)森で遊ぼう

実施回数　1回

定　　員　親子20組、事前受付

実施目標　「観察会」という形態の行事では参加しづらい、小さい子供を持つ家族連れに対して、「自然遊び」の形態の行事を通じて自然に親しむ機会を提供する。

実施要目
・開拓記念館と共催とする。
・日曜日の午前中に実施する。
・プログラム作成と現場での実施を専門家に依頼する。
・講師は、丸山環境教育事務所の、丸山博子代表を予定する。
・雨天等の荒天時の代替プログラムを準備する。
・詳細については、別途決定する。
・講師予定者連絡先　丸山環境教育事務所　電話・FAX 272-6284

(4)森を歩く

実施回数　1回

定　　員　30名、事前受付

実施目標　野幌森林公園の中でも、ふだんあまりなじみのない地区を訪れ、野幌森林公園の自然により深く親しんでもらうことを目的とする。

実施要目
・開拓記念館と共催とする。
・冬に実施する。
・日曜日に実施する。
・歩くスキーを使用して、歩道のないところも歩く。
・細かい解説よりも、参加者が森に親しむことに重点を置くようにプログラムを工夫する。
・講師は、開拓記念館の、門崎允昭資料管理課長を予定する。
・詳細については、別途決定する。

(5)講演会

実施回数　1回

定　　員　100名、事前受付

実施目標　野幌森林公園をフィールドにしている研究者等に講演を依頼して、公園利用者にふだんは気付きにくい森の姿を知らせることにより、野幌森林公園の自然により興味を持ってもらうことを目的とする。

実施要目
・開拓記念館と共催とする。
・日曜日に実施する。
・開拓記念館講堂を使用する。
・聞いたら野幌森林公園を実際に歩きたくなるような、また、野幌森林公園を歩くときに、森を観察するきっかけやヒントになるような話題と

なるよう、工夫する。

・講師は、専修大学北海道短期大学造園林学科の、石川幸男助教授を予定する。

・演題は、「野幌の森林、北海道の森林」を予定する。

・詳細については、別途決定する。

・講師予定者連絡先　専修大学北海道短期大学造園林学科
　　電話　01266-3-4321　FAX 01266-3-4071

3　実施日程

実施日	実施時刻	行事名	下見実施日	備考
平成6年4月21日（木）	10:00～12:00	4月の森の観察会	4月17日（日）	A
5月15日（日）	9:30～14:30	春の森の観察会	5月8日（日）	A
7月3日（日）	10:00～12:00	森で遊ぼう	別途決定	B
8月4日（木）	10:00～12:00	8月の森の観察会	8月2日（火）	A
10月23日（日）	9:30～14:30	秋の森の観察会	10月16日（日）	A
11月10日（木）	10:00～12:00	11月の森の観察会	11月8日（火）	A
12月4日（日）	13:30～15:30	講演会		B
平成7年1月12日（木）	10:00～12:00	1月の森の観察会	1月10日（火）	A
2月19日（日）	10:00～15:00	冬の森を歩く	別途決定	B
3月5日（日）	9:30～14:00	冬の森の観察会	2月26日（日）	A

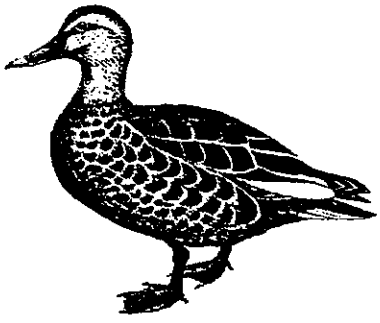
Aは、北海道ボランティア・レンジャー協議会に協力を依頼。
Bは、開拓記念館と共催。

4　北海道ボランティア・レンジャー協議会主催行事への協力について

・　北海道ボランティア・レンジャー協議会が、野幌森林公園内において、観察会等の行事を計画しているので、実施に当たっては当事務所も協力するものとする。

自然観察の企画運営

マニュアルダイジェスト



カルガモ　*Anas poecilorhyncha*　Spot-billed Duck

自然はあらゆる場面で、さまざまな情報を提供してくれています。ただ私たちがこうした情報を受け止めることのできるマインドと観察方法を持っているかが問題なのです。自然観察会を企画したり、運営したりするとき、自然観をしっかり持つと同時に観察のメソッドをはっきりさせることが重要なことは言うまでもないことです。

雪がとけ、楽しい観察会の季節になろうとしている時、観察会運営のあれこれをまとめてみました。

ある国立公園のボランティア・レンジャー解説マニュアル

故河村前会長の遺品から、紹介してまいりましたシリーズも今回が最終回となりました。自然解説の定義と目的から出発し、基本的な内容、原則、話し方、野外での解説方法等について、これまで紹介しました。

ここでは、自然解説の締めくくりとしての部分を取り上げたいと思います。

（４）野外自然解説の終了

□ 終了地点は通常ビジター・センターがあてられ、その場所は人が多く集まっているので、少し手前で最後の解説を行い、終了することが必要である。

□ 終了地点ではルートのハイライトを簡単に振り返り、最も重要なことを繰り返す。

□ 他の自然解説のプログラムを紹介しておく。（例えば、夜７時から○○でスライドを使ったレクチャー映写会を行います。等）

□ 解散した後も、質問を受けるため、しばらく残っていることも必要である。

（５）野外自然解説運営の一般的注意

□ 歩く時は、常に先頭に立たねばならない。

□ 絶えず対話を行うように務め、参加者に質問させるように仕向けることが大切である。質問が多いほど成功と言える。

□ 話し方にはユーモアが必要である。あまり気のきいたセリフやキザなセリフはグループ全体をシラケさせる。

□ グループの一人ひとりが何に興味を持っているかを、出来るだけ早く把握しなければならない。

□ グループのなかの特定の人（綺麗な女の子、かっこういい男の子）に、特に親切にすることは避けねばならない。中年のおばさんや若い娘は特に嫉妬深いので注意が必要である。

□ 植物を折って、手に持って説明することは絶対にしてはならない。

□ 質問された事項について、答えられない場合、「私は知りません」と言うことをためらってはならない。中途半端な答えによって化けの皮が剥げると企画全体がメチャメチャになることもある。

□ 最も大切なことは、自然解説員はグループの手助けをしているのであって、学校の野外活動のような指揮者ではないことを銘記すべきである。

自然解説ツアー成功の秘訣は、話し方と同様、経験である。経験の少ない人が成功するためには周到な準備が必要で、解説地点の選定と地点毎の説明を考えておかねばならない。

解説地点の選定にしても、１５～２０人のときは、解説者はどこの石の上に立ち、話を聴く人はどこに座って、どの方角を見て、どのような話をするかと言う、きめ細かさが要求されるし、時間による光線の状態までも考える必要がある。

自然解説は芸術であると言われるのもこの辺に理由がある。

（研　修　部）

自然観察について

☆　自然をどう観察するか－５つの態度と２大テーマ

(1)ふつうの物、ふつうの景色を大切にする　　……自然保護につながる
(2)生物の名前にこだわらない　　自然観察の態度
(3)採らないで観察する
(4)ミクロに見ないでマクロに見る
(5)時間の軸で眺める

◎自然のしくみを見る　　……自然観察のテーマ
◎人と自然のつながりを見る

☞　グリーンブックス76 自然観察のし方 青柳監　ニューサイエンス社 から

自然かんさつからはじまる自然保護

ＮＡＣＳ－Ｊ自然保護教育活動のあゆみ　~自然観察親友誌15年をむかえて~

☆　自然の保護（自然保護の概念、資源としての自然、貴重な自然の保護、生活環境の保全、身近な自然の保護、自然保護を進めるために）

☆　自然の観察（自然保護教育としての自然観察会、自然観察会の３つの段階……親しむ、知る、守る、名前にこだわらない観察会を、採らないで観察しょう、観察会の工夫）

注）観察会の工夫

紙しばいを使おう、ゲームをしよう、カードを使おう、頭でなく手を動かしてもらおう、ワークシートに指導をやらせよう、分かち合おう、安全対策を十分に、いつでもどこでもだれとでも自然観察

☆自然のしくみに気づく～森の観察を通して～

（森をスケッチしよう、近づいて見よう、森に入ってみよう、森を感じよう、森を内側から見て見よう、落ち葉めくりをしよう、森を見直す）

☆フィールドワーク・テーマさがし（自然観察テーマ集）

自然観察会を行なうとき、どんなものが自然観察のテーマになり、どんな視点で観察するとより楽しく、深く観察できるか、また意識的に取り上げたいテーマはどんなものか、を実際に自然観察をしながら学ぶ）

※自然観察のテーマをひろうコツ

私たちの自然観察会は、自然保護教育をめざして（生き物一つ一つの名前より、自然のしくみを観察）、参加者に自然の解説をするというより、参加者が自然観察するきっかけを作ろう（解説より体験を重視）というものだ。

ところが、自然観察会の中には出てきた生き物の名前をはじから説明していくものが少なくない。

また、せっかくの自然を前に、野外講義をしている例も多く見られる。自然

観察会が、このような「生き物説明会」「野外講演会」にならないようにするために、次ぎの４つの視点で観察テーマをひろい、観察会の展開を考える。

□ 観察会の展開の仕方として
①五感……それを五感でとらえられないか
②作業……何か作業にできないか

□ 観察テーマをひろうときの視点として
③人と自然のかかわり……それと人とのかかわりがみられないか
④自然のしくみ……それを通して、自然のしくみに気づくことができないか

⑤まとまりのある見かたをしよう……一つ一つの生き物に注目する前に
⑥描くことで、よく見よう……スケッチのすすめ
⑦話し合ってわかちあお……自然の見かた・感じ方はみんな違う
⑧「なぜだろう？」と疑問形で見よう……ふつうのものも見かたで面白くなる
⑨身近にたくさんあるものを大切にし、珍しいものや名前にこだわらない見かたをしよう
⑩採らないで見よう……採ると見えなくなる
⑩過去や未来、季節変化も想像しながら見よう

☞ NACS-J資料集NO.32 (財)日本自然保護協会から

リーダーの心がまえ

ネイチャーゲーム創案者であるジョセフB．コーネル氏は指導者のために次ぎの五つのアドバイスを述べている。

□ 「教える」よりも分かち合おう
□ 指導者は受身でいよう
□ チャンスを逃さないで
□ 体験第一、解説は二の次に
□ 楽しさは学ぶ力

このことは、子どもはもちろん、大人を対象とする場合であっても、自然観察会のリーダーがいつも念頭に置いて置くべきエッセンスと言える。

もうすこし具体的に、観察会のリーダーがふだん心がけておくべきことを、私たちの体験から整理しておく。

1．テーマ性を持たって、ねらいをはっきり絞りこもう。そのためには、ふだんか問題意識を養うことが大切だ。
　下見などでの現場の情報収集はもちろん、本・新聞・テレビなどのメディアからのほか、友人・知人・学校・博物館など、あらゆる情報収集の機会をのがさないようにしたい。
2．ストーリー性を持たせて参加者がのれる観察会にしょう。
3．１日のテーマは１つか２つ、多くても関連したもので３つまで。欲張り過ぎると結局散漫になって何をやったか分からなくなる。
4．参加者の興味や注意力が集中でるのは、始めてから２時間程度である。したがって普通は午前中に当日のメインテーマをやってしまい、午後は自由な遊びの時間にしたい。
5．自然の変化や参加者の反応に常に注意して、柔軟に対応よう。下見で決めたテーに拘

わらず、目前にあるおもしろい素材をしっかり捉えよう。

6．リーダーは子どもや父母の前では自信を持って信頼感を得るよう言動に気をつけよう。少々の失敗やミスがあっても決してオロオロしないこと。

7．主役は参加者。リーダーはガイドであり、コーディネイターであり、場合によっては仕掛け人でもある。

8．自然からの感動や、自然破壊に対するいきどおりを参加者と分かち合おう。それにはリーダー自身の感受性を鋭くし、それをうまく表現する方法を身につけることが大切である。

9．いつも自然の事象や生物、子どものことに関心を持ち、学び続けよう。

10．自然界の動きはゆっくりしていて、かつ確実である。そのため、観察や自然の中での遊びには「早く早く」は禁物である。子どもたちが自発的に気づき、動きだすまで待つ十分な時間と余裕のある心をもとう。

11．刺激の強い都会の生活にひたりきった子どもの感性を目覚めさせ、自然界の微妙な動きや違いをとらいることができるようにするには、日常の生活と異なった環境を作ってやることも必要だ。例えば、夜明けに大きな川のアシ原でカモが帰ってくるのを息をひそめて待つ。こんな観察会をたまにやってみたい。

12．全員を満足させようとすると、結局はだれも満足しないことになる。パーフエクトを狙うことはやめよう。長年回数を重ねたベテランでも、参加者だけでなくリーダーも充実感を覚える観察会はそう度々できることではない。うまく行かなかったからと言って諦めたり、腐ったりすることは禁物だ。むしろ良かったことを見出して次の機会に活かそう。そのためにもリーダーは、さまざまな年代や経験を持つ、異なるタイプの人から編成されている方がよい。

観察会運営マニュアル

1．観察会の企画

企画の前提として観察会て何を狙いとするのか、どうゆう問題意識持って行なうのかが大切である。あまりガチガチに構えるとしんどくなるが、何の問題意識も持たず、仲間内で単に楽しいからというだけでやるのは自然保護活動とは縁のないものになってしまう。

□　企画の方法

行きたい場所が先にある場合

・　その季節に何があるのか
・　その場所をどう活かした自然観察会が出来るのか

やりたいテーマが先にある場合

・　目的に最適の場所は？
・　そのプランが実現出来るか、条件（手段・人・材料）を考える

つまり、テーマ・場所・素材なとの骨格が固まれば、次に下見・観察会の日程を決め、下見の結果をもとに観察会の詳細を決定する。

・１日のプログラムを作る時、子どもの自発性を持つ時間的余裕を確保するため、目的地では少なくとも３～４時間は滞在できるように考慮すること。
・下見に参加出来なかったリーダーには、下見表を渡し、役割をぶんたんしてもらう。
・観察カードを作る日など、観察会までにしなければならないことをリストアップし、準備作業の日を決めてから解散する。

３．観察会までに

□ 観察カードをつくる
・下見を振り返り、テーマや観察対象を確認して、発問・子どもの作業内容・まとめ方などを検討しカード化する。
・リーダーの導入方法・説明内容・作業内容について打ち合わせする。

□ 当日のタイムスケジュールやリーダーの役割分担を決定する

□ 緊急連絡網の確認とリーダーの出欠を確認する

□ 持ち出す備品や準備物をチェックする

４．観察会前日

□ 持ち物の確認
・チェックリストを見ながら、それぞれの役割分担で決められた持ち物を確認する。
・救急箱や名簿、水など、リーダーの持ち物には、責任が伴うものが多いので、必ずチェックをする。
・名簿は必ず連絡先が明記されたものを用意し、出欠を確認する。（これを確認しないと、人数が足りないときに誰がいないのかもわからず、連絡もとれない。また初めての参加者が多い観察会の場合は、参加者同志のチェックも期待できないので、特に注意すること）

□ 天気予報の確認
・天気次第では、連絡網により予定変更の緊急連絡をする必要がある。

□ 十分な睡眠
・カードの導入やコースなど、頭の中でシミュレーションしてから、十分な睡眠をとる。

５．観察会当日

□ 天気予報と実際の空模様を確認する
雨天で中止する場合
・あらかじめ雨天中止することが決定していて雨が降った場合でも、誰か一人は集合地に行っておく。
雨天で決行する場合
・警報が出ていないか。
・目的地を変更するか。

□ 下見の下調べ

・初めての場所とか初めてのテーでは、下見の下見が必要になる。（「下見をしたけれども駄目だった」では提起的な自然観察会は実施出来ない）

・フィールドガイドなどで見つけた場所や、今までいったことのない場所の場合は特に2万5千分の1などの地形図で、地形・枝道・目印になるものなど確認しておく。

2．下見

観察会の企画が現場で実施出来るかどうかを確認したり、新たな観察テーマを考えたり、特に観察会を安全に手順よく運営して行くための準備として、下見は欠かすことができない。下見を行なうにあたっては次のことを心がけておきたい。

・なぜ下見をするのか。なぜ下見が必要なのかを、もう一度確認しよう。

・下見はリーダー相互の研修の場であり、若いリーダーが育つ場でもある。

・リーダー自身が自然観察を楽しみ、交流の場としよう。

・下調べの際に得た情報を、必ず自分の目で確認すること。

・当初の企画にとらわれすぎて、目の前にある良い素材を見逃さないようにしよう

□ 下見で必ずすること

・下見表に必要事項を各自が記入する。（代表者が記入してコピーするのではなく、話し合いながら記入する）

・企画テーマに沿った素材探しとルート確認。

・観察会進行のストリーづくりをし、観察や観察カードのまとめなどをする場所、および昼食場所を決定する。

・危険個所の洗い出しと対策を話し合い、役割を分担する。

・迷いそうな横道や新ルート、エスケープルートを調べる。

・トイレ（に使えそうな場所）の確認。

・真水を確保できる場所を探す。（ある程度の水は持参しておく）

・雨天時の対応について相談しておく。

□ 下見での注意事項

・リーダー一人で行かないこと（リーダーの安全のためと、見落としを防ぐため）

・集合予定地で予定時刻に集合し、利用交通機関や乗り換えルートの確認をすることが原則。（人の流れや交通量など、実際の時刻で確認する）

・危険個所の洗い出しでは、子どもの視点、行動の特徴、背の高さ、歩幅を考え、興味を引きそうなものや場所を考慮すること。

・服装、装備、持ち物など必要な物はないか。

・必ず図鑑を携帯し、危険な動植物のチェックをする。

・観察会で調理する時（特に採取したものを対象とする時）や、川や海に入る計画を立てる場合は、必ず下見でもやってみること。

・雨天時の対応を決める。

ア）雨天でも行なう→安全面は大丈夫か。場所の変更は必要か。

イ）延期する→何時に延期するか。

ウ）中止する。

・救急病院のチェックは、年度始めにあらかじめ行なっておくとよい。（活動フィールド内にある休日医療施設の数は限られている）

・タイムスケジュールを決める際には、下見でかかった時間を参考に、子どものペースを考慮して予定を組む。

□ 集合

集合時間まで

・最低一名は、集合時間より早めに来ておく。（３０分くらい）
・改札口周辺などで一般の人の迷惑になっていないか注意する。

始めの挨拶

・時間を守り、参加者への挨拶とリーダーの紹介から始める。
・観察会の主旨、行動予定（コース）、昼食場所などについて話しておく。（場所によっては現地でも良い）
・危険な場所や迷子になりすいところなど、注意すべき所は事前に告げておくことが、事故防止のために必要。
・フィールドマナーを確認する。
・説明役のリーダーが話している時は、他のリーダーはお喋りをしない。あらかじめ決めた役割に従い、スケジュールの進行に協力する。
・見送りに来ている保護者に対して、より深い理解を得るためのよい機会であることを忘れずに。

人数確認

・名簿で確認しながら、出席をとる。（必ず顔を見て、参加者の顔色にも注意する）

□ 交通機関利用時

・一般のお客さんの迷惑になっていないか、常に注意する。（社会的マナーを守らせる）
・乗り降り、乗り換えの時には人数を確認する。

□ 現地

・チーフリーダーは全体に気配りと目配りをし、他のリーダーは役割を着実に遂行する。

移動時

・リーダーは、列の先頭と最後尾に必ずつく。（分れ道では、次ぎのリーダーが来て、全員が揃ってから進む）
・最後尾には経験のあるリーダーがつく。また、リーダーは固まらず分散し、子どもの間に入って歩く。
・道路を横断する時と危険個所を通過するときは、必ずリーダーが一人つく。
・狭い道で車が来たら、より安全なほうに全員を寄せる。
・子どもの体力を考えてペース配分し、適当に休憩をとる。
・帰路は疲れが出て注意散漫になりがち。最後まで気を緩めない。

観察時

・子どもと同じ視点で観察しているか。
・子どもの興味や自発性を尊重しているか。
・五感をいくつ使ったかを確認しながら観察を進める。

昼食時

・ゴミを一切出さないよう、持ち帰りを徹底して指導する。
・リーダーだけ集まらず、子どもの中に入って楽しく食事しよう。
・父母の参加があれば、交流するよい機会であるので、積極的に話しかけよう。

午後から

・観察や学習よりも、子どもの自発的な遊びなどの活動を中心とする。
・リーダーも遊びの中に入ろう。ただし、安全への目配りと、自然に親しむ心を忘れないように。

帰りのまとめ

・その日のまとめを必ず行なう。観察したものや心に残った事などを。

□ 解散場所
・次回の予告を話せる範囲で伝え、期待を持たせる。子どもの意見を聞いてみるのも大切。
・寄り道をせずに帰宅するよう注意して解散する。
・最後の子どもが帰るまで、リーダーは残っておくこと。いつまでも帰らずに残っている子どもに注意。

□ 反省会
・解散後に反省会をする。それぞれのリーダーが気づいたことや、子どもの反応なども含め、楽しく真剣に話し合う。
・反省した事を踏まえながら、次回の企画を考える。

☞ 自然観察マニュアル　兵庫県自然観察会　長谷川から

こんな観察会をすすめたい～観察会のちょっとした工夫

● 観察会の原点にかえって
①自然が「先生」（自然観察指導員は自然のなかへの案内人）
②体験＜自然を感じること＞が第一（自然を解説することに終始していないか）
③感動を共有しよう

● 伝える工夫・伝わる喜び
①五感を使ってとらえる（視点を変える新鮮さ）
②作業をとりいれる（探す・集める・数える・描く・作る…）
③ときにはゲームにする
④道具を使う（あくまでも補助的に、本物の自然が第一）
・紙芝居
・カード
・ワークシート（設問を記入しておく）
・絵本
・検索図鑑
・袋、バンダナ…

● 参加者とのコミュニケーションを大切に（参加者からひきだそう）
①こちらから話しかける
②発問の工夫（参加者の観察を促すような）
・観察のきっかけとなる問い掛け（例）
「～をしてみましょう」
「～はどうなっていますか？」

・観察を深める発問（例）
「どんなことに気がつきましたか？」

「～についてどんなふうに感じましたか？」
「さらに～してみましょう」
「どうして～だと思いますか？」

③観察中の配慮
・時には一人になる時間を（余計なおせっかいにならないように、参加者が「ああ、いいなぁ」と自分で感じられる時間を）
④まとめの工夫
・別ち合う（指導員が説明するのではなく、参加者に気づいたこと、感じたことを発言（発表）してもらう）

● 観察会の持ち方を見直そう（形にとらわれず、完璧を求めず、長く続けよう）
・身近な地域の自然がフィールド
・短距離（歩き過ぎになっていないか）
・短時間（短時間の善さも）
・小人数（大人数の観察会だけにとらわれていないか）
・じっくり、ゆったり、ていねいな観察（盛沢山になっていないか）
・参加者の反応、感想をフィードバックし、少しずつ改善する（観察会をやれたことをまず評価しよう）

参考：ネイチュア・フィーリング研修会資料「ネイチュア・フィーリング自然観察会を進めるために」 島山 由子

●おすすめ図書の紹介
神秘さや不思議さに目を見張る感性…
「センス・オブ・ワンダー」レイチェル・カーソン，祐学社 1，200円
身近な、見慣れた自然のなかから新発見
「街の中の森」 浜口 哲一， 学研 1，800円
いでも、どこでも、だれとでもできる自然観察のノウハウ
「ぼくらの自然観察会」 植原 彰， 地人書館 1，545円
子どもと楽しむ自然体験の方法がいっぱい
「たのしい自然発見シリーズ（全5巻）」 浜口 哲一 学研 各1，200円
普段の観察会を見直すことにも…
「ネイチュア・フィーリング～からだの不自由な人たちとの自然観察」NACS-J編集
思索社 2，060円
指導員としてのこころがまえがイラストでわかりやすい
「自然解説テキストブック」NACS-J 1，500円

☞ 1993.9.18~19 円山公園 NACS-J普及部長 講師 法子から

お知らせ

平成６年度の森林総合技術セミナー「林業技術専修講座」が、道立林業試験場の主催で開かれます。

この専修講座には、林業機械・森林保護・緑化技術・修景技術・インストラクターリーダー養成などありますが、このうちの「インストラクターリーダー養成」講座は、ボランティア・レンジャーにとって知識向上、充実を図るよい機会です。都合のつく会員は、是非参加してみませんか。

この「インストラクターリーダー養成」講座は、平成３年度から始まり今回で３回目になりますが、１回目は佐藤健一さんの他９名、２回目は成田伸一さんの他２０名の会員が参加されています。

平成６年度の専修講座「インストラクターリーダー養成」は、全道ブロック単位で５月１７日（火）から２０日（金）の４日間にわたり、美唄市光珠内町東山にある道立林業試験場で実施されます。

受講希望の会員は、別紙の林業技術専修講座・受講申込書を活用し、直接道立林業試験場長に申し込んでください。

注）１．道立試験場には宿泊施設があり、１泊３食で料金は２，９００円で利用できます。テキスト代１０冊４，０００円かかります。

２．道立林業試験場の住所と電話番号

〒　０７９－０１　美唄市光珠内町東山

☎　０１２６６－３－４１６４

３．道立林業試験場の講座担当者

専技室　　主査　橋場総括ＳＰ

４．交通機関

★ＪＲを利用する場合

函館本線光珠内駅下車、道立林業試験場まで徒歩約１０分。

★バスを利用する場合

・ＪＲ美唄駅前発中央バスの専修大学行きに乗車し、林業試験場前で下車、徒歩１分。

・バスで国道１２号沿いのバス停利用の場合は、専修大学入口で下車、道立林業試験場まで徒歩約７分。

専修講座「インストラクターリーダー養成」の講座内容と日程

日	時 9:00~ 12:00	間 13:00~ 17:00
第1日		(開講式) 13:00~13:30 (室内講義) 13:30~16:40 北海道の森林 (1) 森林の生態 (2) 北海道に分布する主な樹種と特性 (3) 天然林・人工林の成立ちと扱い方 (場内見学) 16:40~17:00 研究課題と講義内容
第2日	(室内講義) 9:00~12:00 森林の公益的機能 (1) 森林の働き (2) 世界の森林と環境	(室内・現地実習) 12:00~17:00 森の中での遊びと学習 (1) 森の遊び(Quiz And Geme) (2) 昆虫、木の葉などの標本づくり (3) 木の実や枝などを使った楽しい工作
第3日	(現地実習) 9:00~17:00 森の仲間たち (1) 森林の取扱い　ア、良い木材の生産　イ、家に使用できる木　ウ、花が美しい木	

第 3 日	(2) いろいろな山野草 (3) 森の動物、鳥、昆虫など 応急手当 (1) 現場での応急手当 森からの贈り物 (1) いろいろな野生キノコを楽しむ (2) いろいろな山菜を楽しむ	
第 4 日	(室 内 講 義) 9:00~11:30 北海道の野生動物(動物・鳥類) (閉 講 式) 11:30~12:00	

お知らせ

北海道ボランティア・レンジャー協議会主催の自然観察会

平成６年度の北海道ボランティア・レンジャー協議会が主催する自然観察会の具体的な日程は、４月３０日の定期総会で決定されますが、自然観察会の実施に際しましては、会員皆様のご都合もありましょうが、なるべく多くの参加を希望しています。

従いまして、総会終了後可及的速やかにその日程をご連絡いたしますので、よろしくお願いします。

（研修部）

お知らせ

関係機関の人事異動

北海道庁の定期人事発令により、北海道ボランティア・レンジャー協議会と密接な関係にあります道保健環境部自然保護課と野幌森林公園事務所で下記のように異動がありました。

去られた方々には、今までのお世話になりましたお礼と今後のご活躍をお祈りし、来られた方々には、今後より一層のご指導をお願いしたいものです。

関係のあります異動の内容を見ますと、自然保護課長の多田誠さんが岩見沢道有林管理センター署長に、後任は雄武林務署長の大野英雄さんがなられました。

また、同課保全係の安田幹晴さんがニセコ・積丹国定公園管理事務所所長に、同じく中瀬久美子さんが保健環境部地域医療課に変わられ、その後任に同課の宮津直倫さんと保健予防課感染対策係から坂下智恵子さんが来ました。

野幌森林公園事務所では、所長の森俊道さんが保健環境部参与になられ後任に社会福祉部交通安全対策室長の林田安弘さんが、公園管理部主任技師の大森信善さんが釧路支庁林務課長になられその後任に林務部森林計画課計画照査係長の藤岡節さん、公園利用課長の杉山進さんが日高支庁林務課検査専門員になり、その後任に苫小牧林務署総務課長の星澤秀雄さん。また同課の深澤敬さんが道自然保護課に変わり、後任に留萌支庁林務課自然保護係の幌村幸司さんが来られました。

最後になりましたが、公園事務所公園利用課調査員の尾花義幸さんには種々お世話になりましたが退職されました。

お知らせ

環境学習リーダー研修会

北海道保健環境部環境調整課では、昨年度まで「せせらぎスクール」リーダー研修会を開催していましたが、本年度から「環境学習リーダー研修会」を実施するとになりました。

この研修会は、地域における環境学習のリーダーを養成するもので、研修会を年２回開催することにし、１回目は６月の平日、２回目は秋の土日に実施する予定です。参加対象は、支庁・市町村職員、教育関係者、環境教育に携わる各種団体の関係者などで、１回につき５０名程度の参加者を予定しています。

１回目は６月２１日（火）～２２日（水）の１泊２日、実施場所は札幌市真駒内ハイツ・真駒内公園などで、このうち、２１日の午前中に環境月間記念行事として、特別講演会［（財）キープ協会川嶋直氏予定］も、研修の一部としています。

参加ご希望の会員は、佐々木幸夫(〒003札幌市白石区南郷通5丁目4-32 ℡・FAXとも 011-875-6602)にご連絡ください。

会報「エゾマツ」第２８号のなかに関係機関の人事異動をお知らせしましたが、一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正しお詫び申し上げます。

記

北海道野幌森林公園事務所公園管理部　主任技師　星澤秀雄　様

北海道野幌森林公園事務所公園管理部　公園利用課長　藤岡　節　様

北海道ボランティア・レンジャー協議会会長　様

自然第１０６７号
平成６年３月23日

北海道保健環境部長

平成６年度自然に親しむ集いの実施について

自然環境保全行政の推進につきましては、日ころから格別の御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、「自然に親しむ集い」の行事につきましては、自然環境の保全とその適正な利用に対する道民の知識と理解を深めることを目的として、貴会をはじめ関係諸団体の御協力をいただき例年実施しておりますが、平成６年度においても別添「平成６年度自然に親しむ集い実施要領（案）」に基づき実施する予定ですので、御協力くださるようお願いいたします。

（自然保護課主査（公園・普及））

各　支　庁　長　　様

自然第１０６７号
平成６年３月23日

保　健　環　境　部　長

平成６年度自然に親しむ集いの実施について

自然環境の保全とその適正な利用に対する道民の知識と理解を深めることを目的として、例年「自然に親しむ集い」を実施しておりますが、平成６年度においては別添実施要領（案）により実施する予定ですので、管内市町村、関係機関、関係団体等にこの旨を周知し、その協力を得ながら、標記集いを効果的に実施するよう、特段の御配慮お願いいたします。

（自然保護課主査（公園・普及））

平成６年度「自然に親しむ集い」実施要領（案）

1　名称

自然に親しむ集い

2　実施主体及び実施期間

(1) 実施主体　各支庁

(2) 実施期間　平成６年４月29日から10月31日まで

3　趣　旨

自然に親しみながら、自然の仕組みや効用あるいはその適正な利用の方法などについての知識と理解を深めることにより、自然を大切にする意識の高揚を図り、併せて住みよい環境づくりのための自主的な運動の盛り上がりを醸成する。

4　対象者

小・中学校生徒及び一般道民

5　実施内容

各支庁管内ごとに、市町村や関係団体等の協力を得ながら、野外自然観察観察会、探鳥会、植樹祭、ハイキング、登山、キャンプ、歩け歩け運動等の催しを１～２回開催し、自然環境の保全とその適切な利用について説明するとともに、野外観察の方法などについて指導を行う。

6　重点目標

(1) 「ゴミを持ち帰りましょう」

(2) 「動植物を野生のままに守りましょう」

7　広報活動

この催しの趣旨を道民に周知し、その効果的な実施を図るため、北海道自然公園協会、社団法人北海道国土緑化推進委員会及び北海道ボランティア・レンジャー協議会にこの催しへの協力を依頼し、併せて、広報資料や広報紙等によって、市町村等関係機関に、この催しの趣旨を周知するとともに、地域住民等に参加を呼び掛ける。

8　留意事項

(1) 平成５年１１月に環境基本法（平成５年法律第９１号）が制定され、同法第１０条において、事業者及び国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高めるため、６月５日が環境の日と定められたことにかんがみ、この日における行事の実施に努めること。

(2) 「自然に親しむみどりの日」の実施期間（４月２９日を中心とする期間）、「自然に親しむ運動」の実施期間（７月２１日から８月２０日まで）及び「全国・自然歩道を歩こう月間」（１０月１日から１０月３１日まで）における行事の実施に努めること。

9　実施計画書及び実施状況報告書の提出

支庁長は、次により実施計画書及び実施結果報告書を取りまとめ、保健環境部長に報告するものとする。

(1) 実施計画書

様　　式　　別記様式１

提出期限　　４月１８日

(2) 実施結果報告書

様　　式　　別記様式２

提出期限　　１１月３０日

お知らせ

平成6年度グリーンインストラクター養成研修会

社団法人北海道国土緑化推進委員会主催（後援北海道）で、森林を利用する人々に、緑の知識についてボランティアとして指導・解説できる「森の案内人」を養成するために、6日間の全課程で研修会を開催します。

本年度は、下記の要領で行ないますので、参加ご希望の会員は直接社団法人北海道国土緑化推進委員会に申し込みください。

記

募集人員　　４０名（１回につき２０名で、２回実施）

日程・会場　　次ぎの２カ所で開催

（１）鋼路会場　平成６年９月２６日から１０月１日までの６日間、阿寒町２３－３６
赤いベレー ☎ 0154-66-2331

（２）桧山会場　平成６年１０月１７日から２２日までの６日間、厚沢町役場会議室
☎ 01396-4-3311 宿 俄虫温泉旅館　☎ 01396-7-2213

申し込み・問い合わせ先

社団法人　北海道国土緑化推進委員会　〒060 札幌市中央区北4条西5丁目[illegible]
☎・FAX 011-261-9022

費　　用　　受講料無料。テキスト・参考図書・資料及び実技用品（コンパス・ルーペ等）インストクターワッペン・バッジ等は無料配付

ただし、交通費及び宿泊・食費（６日間の宿泊費・食費約３０，０００円程度）は、参加者負担。

（研修部）

今期最後の会報「エゾマツ」第２８号を発刊出来ました。本来ならば３月中に会員の皆さんにお届することになるのですが、３カ月に１回となりますと、なるべく多くの情報を提供しようととする結果が若干の遅れにつながるようです。

１９９２年８月の定期総会で選ばれた広報部の皆さん、大変ご苦労様でした。皆さんにより発刊された会報は、第２３号から今回の第２８号に及びます。従来の会報と面目は一新され、目を見張る感じでここに瀧谷尚弘・田村允郁・小湖修子・森田敏光の諸氏に心からお礼を申し上げます。とくに、田村氏には印刷など多大のお世話になり感謝しています。

この４月３０日の定期総会で役員改選があり、ここに改めて会員の皆さんに今日まで、会報「エゾマツ」へのご協力に厚くお礼申し上げます。

ご承知のように会報の役割は、当協議会では根幹をなすものであり、その目的達成により一層のご協力をお願いします。そしてこんど選ばれた広報部の皆さんには、より充実した会報の作成を、よろしくお願いします。ありがとうございました。

（副会長[illegible]・[illegible]　佐々木　幸　夫）

本の紹介 BOOK

朝比奈　英三　著

昆虫たちの越冬戦略

——昆虫はどうやって寒さに耐えるか——

北海道大学図書刊行会　　1648円

恒温動物といわれる、哺乳類・鳥類は体温をある一定の温度に保っていないと、正常に生活することができません。一方、変温動物である、両棲類・昆虫などは、住む場所の温度変化に従って体温が変わってきますから、冬の季節には、彼らの体温も、0℃くらいの低温にも十分耐えることができます。

厳冬期の樹木やふきさらしの場所にいる昆虫の成虫・卵・さなぎは、大気の温度が下がるにつれ、体も同じように冷却されるので、体が凍ることも珍しくありません。

しかし、翌春これらの昆虫たちが、元気よく生活を続けているところをみると、体の凍結に耐え生きていたことがわかります。

本書では、昆虫における耐寒性は、体内に持つグリセリンの温度の季節的変化、グリセリンの蓄積によることが大きな要素であることが述べられています。そして、秋にはグリコゲン→グリセリン、春には、グリセリン→グリコゲンという変換が体内で起こっているということなのだそうです。

グリセリンについては、英国の低温生物の学者によって発見され、ニワトリやヒトの精子を適当な濃度のグリセリンを含む溶液中で凍らせると、ほとんど凍害がおこらないということにあります。ですから、越冬昆虫の血液中にグリセリンがかなりの量で溶けているとすると、血液の氷点や過冷却点が下がり、体の凍結を防ぎます。このメカニズムをイラガとエゾシロチョウにスポットをあて述べられています。

なお、・真冬だけに活動する昆虫　・高山の昆虫　・昆虫の越冬と自然環境　・畑の害虫の耐寒戦略等の項もあり、冬の昆虫の生活を知る本になっています。

編集後記

支笏湖畔を散策のおり、ハウチワカエデに付けられた標識の中に「秋になると黄葉する」という説明をみて、アレ？と疑問に思った。　燃えるようなハウチワカエデの紅葉が頭に浮かんだからである。樹木の本にも「秋に紅葉」とある。

気温差を敏感に感じとりいろいろな色彩を見せてくれるカエデ。昨秋は意識的に観察すると少し控え目の紅葉、目立っていたのは黄色の落ち葉であった。

友人から「開拓の村のハウチワカエデです」と葉の先が３ヵ所紅色の斑入りの黄葉の押し葉のはがきが届いた。

見たり，知ったり，気がつかなかったことが突然解かったりして、自然の不思議に出会える“自然観察”を楽しみに四季のめぐりを心待ちにしています。

小渕修子

日増しに春の兆しが感じられるこの頃ですが、会員の皆様はお変りありませんか。
さて、一昨年から広報担当しまして、ようやく２８号までこぎ着けました。
今後もより一層会員のための情報源としての広報誌になるよう、努力していきたいと思います。このことを次期の担当者に期待すると共に、会員の皆様の自発的な参加を宜しくお願い致します。

瀧谷尚弘

「広報」という言葉を国語辞典で引いてみると「人に広く知らせること」とあります。このことを私達の「エゾマツ」にあてはめてみると、本会の活動の趣旨と会員みなさんのニーズをつなげながら情報を提供することにあると思います。広報「エゾマツ」を会員のみなさんと考えていきたいものです。　田村允郁

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会報誌「エゾマツ」28号　1994.4.10発行
発行責任者　大友　健